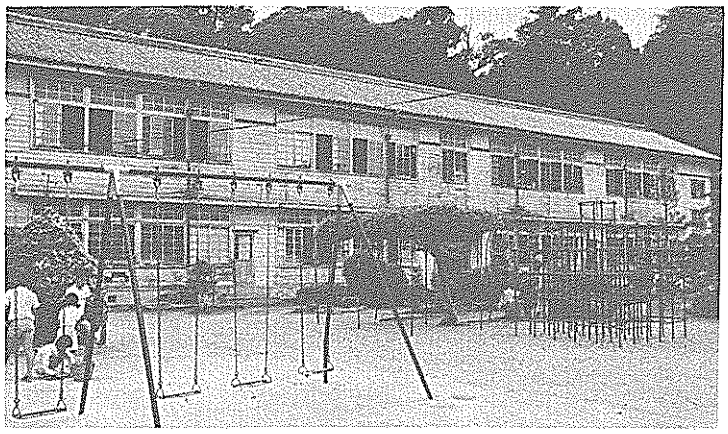


十市地区
市政こん談会

小学校改築はタイムリミット

パーク、依然流動的

十市地区では三回目の「市政こん談会」が六月十一日、十市地区公民館（沢村武一館長）で行われました。

この日は地元から約六十名、市から吉本助役、門田教育長らが、また、関係機関として南国土木事務所、県住宅供給公社の職員も出席。十市小学校改築問題など、十市地区のかかえる諸問題について熱心な意見が出されました。

□十市小学校は明治四十年に建てられた、県下でも最も古い危険校舎である。改築問題が話され始めて何年にもなるが、今の考え方は。

■パークタウンができると生徒数の増加が見込まれるので、現在の六学級そのままの考え方は困難で、将来計画にそった改築が望ましい。より良い状態で、なるべく早く建てなければならないことは十分承知しているが、用地取得、造成問題の話がまだにつまっていない。現在の校舎用地への建築は総合的に考えるとむつかしい。

□黒潮ライン計画はどのように進んでいるのか。

■黒潮ライン（県道春野・赤岡線＝八千六百㍍）は、昭和五十四年度から用地買収が始まったが、五十六年度は引き続き用地買収と仁井田～石土池間の工事を着工したい。

□計画発表以来十一年目を迎えたパークタウンは予定より大きく遅れ、容易にできない状態になっている。区画整理組合をつくって造成を進めるとのことだが、現在の段階はどうなっているのか。

■基本講想が今年一月にまとまり、問題点が生じた。それによると、①区域内六十二㌶（調整池をのぞく）に三十八戸の住居があり、その大半が移転しなければならない。②区域内（市街化）で農業をしていくことには問題がある。③減歩率（六〇％）がかなり高いことなどで、十市地区のパークタウン構想には不十分であるとの考え方から、今年新たに見直す考えである。

そこで、地権者（約百人）のみなさんのご協力が得られるような計画変更を行いたい。ただし、その時点で地権者の同意が得られないようであると、パークタウンは断念せざるを得ないが、今のところは希望を捨てていない。

十市地区懸案の小学校改築のための用地問題は、地区の同意によって進めるべきもので、今の段階でははっきりしたことは言えない。

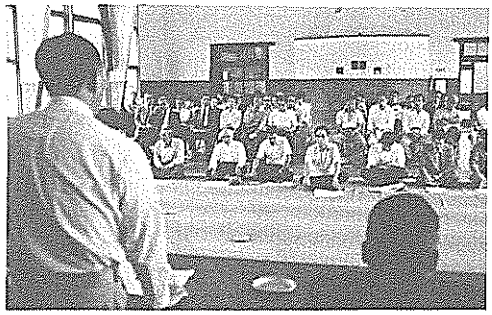
□小学校の改築はもう待てない。危険校舎を見るたびに親として悲しい。いつ着工、いつ完成というはっきりした話を聞かせてほしい。パークタウンと切り離して学校問題を考えてくれないか。

■小学校改築は将来計画をぬきには考えられないが、地元が現在の土地でも良いという結論に達した場合は、その時点で考えてみたい。

□市の財政はどのようになっているのか。

■昭和五十年ごろの財政ピンチから財政再建が始まったが、表面的には赤字解消ができている。ちなみに昭和五十五年度の一般会計では、九千七百万円程度黒字がでているものの、開発公社への支払いがあるので財政再建は容易なことではない。

市民への負担はあまりかけないで、行政を進めなければならないと考えている。

会は終始パークタウン計画と小学校改築問題とのからみで話し合いが行われ、十一年目を迎えたパークタウン計画が今だに現実的なものにならない今日、十市地区としては『小学校改築はもう待てない』との切実な意見が出されました。

県下でもあまり例を見ない老朽危険校舎の改築問題は、今やタイムリミットに来ていると言えそうです。